

教 育 委 員 会 会 議 次 第

令和4年4月28日（木） 15:05

子ども図書館 2階 大研修室

1 開 会

2 案 件

(1) 議案

議案第4号「北九州市教育支援委員会委員の委嘱又は任命について」

(特別支援教育相談センター所長)

(2) その他報告

その他報告①「学校規模適正化について」

(学校規模適正化担当課長)

3 閉 会

教 育 委 員 会 （ 定 例 会 ）

- | | | |
|---|-------|---|
| 1 | 開催年月日 | 令和4年4月28日（木） |
| 2 | 開催時間 | 15：05～15：30 |
| 3 | 開催場所 | 子ども図書館 2階 大研修室 |
| 4 | 出席者 | (教育長) 田島 裕美
(教育委員) シヤルマ 直美 大坪 靖直 津田 惠次郎
竹本 真実 郷田 郁子 |
| 5 | 事務局職員 | 教育次長 古小路 忠生
総務部長 小杉 繁樹
学校教育部長 高橋 英樹
総務課長 久保 慶司
企画調整課長 浜崎 善則
学校規模適正化担当課長 松本 聡
特別支援教育相談センター所長 北野 里香 |
| 6 | 書 記 | 総務課庶務係長 増田 真二 |
| 7 | 会議の次第 | 別紙のとおり |

教育委員会(定例会)会議録(令和4年4月28日)

1 開 会

15:05 田島教育長が開会を宣言

2 会議録署名委員の指名

田島教育長が会議録署名委員に、竹本委員と郷田委員を指名。

3 案 件

(1) 公開案件

議案第4号「北九州市教育支援委員会委員の委嘱又は任命について」

本議案の提案理由を特別支援教育相談センター所長が説明。

[提案理由要旨]

北九州市教育支援委員会委員の改選に伴い、新委員を委嘱又は任命について、付議するもの。

大坪委員／就学相談を希望される子どもの数は、近年、増加傾向にあると想像する。

年2回審査が行われているが、審議の時間がどれくらいかかっているのか教えていただきたい。

また、5年前は年1回だったが、相談件数が多くなったため2回に増えたのか、運用状況について、教えていただきたい。

特別支援教育相談センター所長／教育支援委員会の年2回の会議では、就学相談に関する答申等ではなく、前年度の就学相談の結果や経過、事業計画等の話し合い及び協議を行っている。

通常の就学相談については、医療面談を伴う定期相談会が5回、それ以外のケースは1,000件程度、行われている。その際、1つ1つのケースについて、教育支援委員の皆様方に判定、答申をいただいている。

なお、昨年度は、1,250件の申し込みをいただき、前年度よりも200件程、増加している。

大坪委員／就学相談自体は、人数が増えているため、コストがかかり始めているが、その相談結果を判定及び答申していただく教育支援委員会は、コストの増加はない。ただ、事例数が増えているため、その分のコストの増加は発生していると理解して良いか。

特別支援教育課長／コストの面で説明する。

教育支援委員会は、年間計画等で1回、年度末の実施の反省や、次年度の方向性の確認で1回、計2回の会議があり、就学相談は1,250件である。相談があれば、就学相談を実施するため、そういう意味でのコストはかかっている。

津田委員／相談件数が非常に増え、適切な支援体制、助言が、大変になっているのではないかと心配している。

マンパワー的な限界や、対応時間等、課題があれば教えていただきたい。

特別支援教育相談センター所長／相談件数が増えていくと、その分、支援委員の先生方にも、判定や答申をいただく数が増えるため、苦勞をかけている。件数が少なくなる限りは、負担軽減は難しいと考えている。

そのため、できる限り、学校で丁寧に、保護者と本人の意志を確認して、就学相談を申し込んでいただきたいと考えている。

また、事務作業で工夫できる部分は、少しでも負担軽減できるような工夫を考えていきたいと思っている。

学校教育部長／昨年度の、最後の教育支援委員会の中でも、その点が議論になり、簡素化できる手続きを今模索しているところだ。

学校で、様々な検査が可能な場合もあるため、できるだけ委員の方に過度な負担がかからないよう、あるいは、就学相談の結果が出るまで、保護者や子どもたちの不安が生じない仕組みづくりができるよう、日々、検討を重ねているところである。

竹本委員／委員会名簿を見て、この委員会を構成するメンバーに関しては、納得しており、とてもふさわしい人選だと思う。

今回の辞任・新任の3名以外は、同じタイミングで任期が解かれると解釈したが、一度にメンバーが入れ替わると、今まで積み上げてきたノウハウや、共通の認識としての課題が、次年度に反映しづらいのではないかと感じた。再任の方の割合を教えてください。

特別支援教育相談センター所長／例年、医師の方は、大きくは変わっていない。

学校関係者や福祉施設等職員は、人事異動等があるため、入れ替わりがある。全体的に見ると、多くても3名から4名程度、入れ替わるような状況だ。

シャルマ委員／通級指導教室についてお尋ねする。

各学校を通級指導の先生が回られる特別支援教室については、保護者にも大変喜ばれており、子どもたちにとっても、いろいろな負担がかからないため、特別支援教育における効果は非常に大きいと感じている。

そこを充実すれば、通常学級での指導が充実し、通級指導がそれをまたサポートするような形になり、特別支援学級の就学相談が減っていくのではないかと思います。最近の動向について教えてください。

特別支援教育相談センター所長／昨年度は、自閉症・情緒障害の特別支援学級に就学先が決まった児童は、前年度に比べると、60件程減少しており、通級による指導が巡回型に変わったことで、大きな影響があったと推察している。

また、交流で概ね適応できる幼児、児童、生徒については、通常の学級で学ぶことを基本とする「インクルーシブ教育」の方向性を示したことも、減少に繋がったのかと考えている。

原 案 可 決

その他報告①「学校規模適正化について」

学校規模適正化担当課長が報告。

[報告要旨]以下の項目について報告。

小森江西小学校・小森江東小学校統合に係る統合後の校舎位置について報告を行うもの。

<意見なし>

報 告 終 了

4 閉 会

15:30 田島教育長が閉会を宣言